



有吉佐和子の文学をめぐる まち歩きマップ



移動時間の目安

- ①→② 徒歩約3分
- ①→③ 徒歩約10分
- ①→④ 徒歩約5分
- ①→⑤ 徒歩約20分

③ 紀の川（河西橋）

幼少期を東南アジアで過ごし、褐色の川を見慣れていた氏は、帰国した際に見た紀の川の青さ、美しさに感動しました。そして二十年後、その感動を作品のモチーフとして書き上げたのが『紀ノ川』です。有吉佐和子記念館から紀の川（河西橋）へ向かう誘導看板がありますので、ぜひその感動を体感してみてください。



河西橋から
見た紀の川

有吉佐和子（1931-1984）は、昭和6年1月20日に和歌山市に生まれました。『紀ノ川』や『華岡青洲の妻』などの和歌山を舞台とした作品をはじめ、社会派小説、ミステリーなど、幅広い創作活動を行うとともに、ルポルタージュや演劇の脚本・演出等でも広く才能を発揮しました。

杉並の邸宅を復元した記念館や自筆原稿、蔵書や愛用の陶磁器などの氏ゆかりの品々をめぐるまちなか歩きで、作品の世界や氏の生涯に触れてみませんか？

① 和歌山市立有吉佐和子記念館

開館時間 9:00~17:00
休館日 水曜日（祝日の場合は翌日）、
12月30日~1月3日
入館料 無料
所在地 和歌山市伝法橋南ノ丁9番地
電話 073-488-9880

記念館HP



② 和歌山市立博物館

開館時間 9:00~17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、
祝日の翌日、12月29日~1月3日
入館料 一般・大学生100円、高校生以下無料
※特別展期間中は別料金
所在地 和歌山市湊本町3丁目2番地
電話 073-423-0003

博物館HP



④ 和歌山市民図書館（有吉佐和子文庫）

開館時間 9:00~21:00
休館日 年中無休
所在地 和歌山市屏風丁17番地
電話 073-432-0010

図書館HP



⑤ わかやま歴史館（わかやま人物探訪）

開館時間 9:00~17:30（入館は17:00まで）
休館日 12月29日~12月31日
入館料 高校生以上100円、中学生以下無料
※和歌山城天守閣と共通入場券あり

歴史館HP



所在地 和歌山市一番丁3番地
電話 073-435-1044（和歌山城整備企画課）

⑥⑦ 和歌山城天守閣・伏虎像

開館時間（天守閣） 9:00~17:30（入館は17:00まで）
休館日（天守閣） 12月29日~12月31日
入館料（天守閣） 高校生以上410円、中学生以下200円
※わかやま歴史館歴史展示室も入場可

所在地 和歌山市一番丁3番地
電話 073-435-1044（和歌山城整備企画課）



和歌山城HP

有吉佐和子氏関連施設等のご紹介

① 和歌山市立有吉佐和子記念館

有吉佐和子氏が旺盛な創作活動を行い、ベストセラーのすべてを執筆した東京都杉並区の邸宅を、氏の心の中に流れる青く美しい紀の川のそばに移し、その生涯と馥郁たる内面世界にふれることができるよう復元した施設です。氏ゆかりの資料の展示や、実際に使用していた机・椅子などを見ることができます。



有吉佐和子氏が数々のベストセラーを生み出した書斎

② 和歌山市立博物館

博物館では、原始から近代の和歌山の歴史や民俗について学べる展示や企画展を行うほか、常設展示室内では有吉佐和子氏のミニ展示を設け、自筆原稿や関連資料を展示しています。



常設展示室内の有吉佐和子氏のミニ展示



立ち姿の伏虎像



現在の伏虎像



わかやま人物探訪



紀の川を眺めることができる図書館屋上



有吉佐和子文庫

④ 和歌山市民図書館（有吉佐和子文庫）

若い頃から読書家であった有吉佐和子氏の蔵書を寄贈していただき、どなたでも閲覧することができるよう「有吉佐和子文庫」を設置しています。

蔵書は執筆に使用した資料や、作家や研究者からの寄贈書など多岐にわたるもので、執筆のために多くの資料を読み、多彩なジャンルの作品を生み出した氏の足跡をたどることができます。

また、作品をピックアップし、その内容に関連する資料とともに紹介する企画展示も行っていますので、作品の世界を、より楽しむことができます。

⑤ わかやま歴史館（わかやま人物探訪）

わかやま歴史館2階の歴史展示室では、和歌山城の築城からの歴史や紀州徳川家の武家文化を体感できるほか、和歌山市域に生まれ、近現代に各分野で活躍した5人の先人を取り上げた「わかやま人物探訪」コーナーを設けています。

その中で、有吉佐和子氏愛用の陶磁器や、氏ゆかりの資料をご覧いただけます。

⑥ 和歌山城天守閣・伏虎像

天守閣が建つ山は虎伏山（とらふすやま）と呼ばれています。それにちなんで、城内にはコンクリート製の伏せた虎の像が設置されています。実は現在のものは二代目で、初代の伏虎像は青銅製の立ち姿のものでした。しかし戦中の金属供出で失われてしまっています。

有吉佐和子氏の代表作『紀ノ川』では、主人公たちが和歌山城を訪れ、初代の立ち姿の像について語ったり、天守閣最上階から市街を眺めたりする場面が登場します。